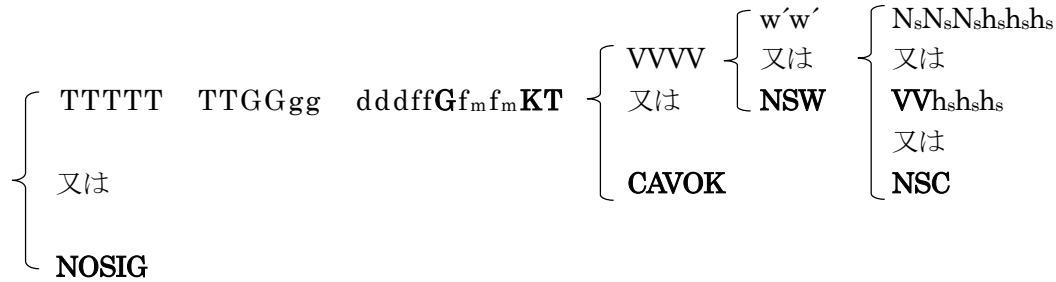


2. 着陸用飛行場予報気象通報式 (TREND)

通報型式：



規則：

1

着陸用飛行場予報

注：着陸用飛行場予報で変化群を付加する基準は、別に定める「航空気象予報業務実施要領」による。

1.1

着陸用飛行場予報は航空気象定時観測気象報に付加する。

1.2

観測したいくつかの要素（風，卓越視程，現在天気，雲又は鉛直視程）に重要な変化の適用基準に一致するような変化が予想される場合，変化指示符 **BECMG** 又は **TEMPO** のいずれか1つを **TTTTT** に報ずる。

また，いずれも重要な変化がなく，変化を報ずる必要はないと予想する場合，**NOSIG** (no significant change) と報ずる。

1.3

時刻群 **GGgg** の前にスペースを置かずに指示文字 **TT=FM** (～から)，**TT=TL** (～まで)，又は **TT=AT** (～に) を前置し，予報の変化の始まり (**FM**) 又は終わり (**TL**) の時刻，又は予報すべき状態の発生予想時刻 (**AT**) を示すのに用いる。

1.4

変化指示符 **BECMG** は，気象状態が規則的又は不規則に変化して，決められた基準未満になるか又は基準以上になると予想されたときに用いる。

1.5

気象状態が変化し，着陸用飛行場予報の決められた基準未満になるか又は基準以上になると予想される場合，その変化を次により示す。

- (a) その変化が着陸用飛行場予報の期間内の途中で始まり途中で終わると予報する場合，変化指示符 **BECMG** の次に指示文字 **FM** 及び **TL** とそれぞれの時刻群を続け，変化の始まりと終わりを示す。

例：着陸用飛行場予報の期間が 1000 から 1200 までの場合は，**BECMG FM1030 TL1130** と報ずる。

- (b) その変化が着陸用飛行場予報の期間の開始時に発生し，その期間の終了する前に終息すると予報する場合，変化指示符 **BECMG** の次に指示文字 **TL** とその時刻群を続け，変化の終わりを示す（指示文字 **FM** とその時刻群は省略する）。

例：**BECMG TL1100**

- (c) その変化が着陸用飛行場予報の期間内の途中で始まり、その期間の終了時に終息すると予報する場合、変化指示符 **BECMG** の次に指示文字 **FM** とその時刻群を続け、変化の始まりを示す（指示文字 **TL** とその時刻群は省略する）。

例： **BECMG FM1100**

- (d) その変化が着陸用飛行場予報の期間内のある特定の時刻に発生すると予報する場合、変化指示符 **BECMG** の次に指示文字 **AT** とその時刻群を続け、変化の時刻を示す。

例： **BECMG AT1100**

- (e) その変化が **00UTC** (**24UTC**) に起こると予報する場合、その時刻を次のように示す。

(i) **FM** 及び **AT** に関するときは **0000** とする。

(ii) **TL** に関するときは **2400** とする。

1.6

その変化が着陸用飛行場予報の期間の開始時に始まり、その期間の終了時に終息すると予報する場合、又はその変化が着陸用飛行場予報の期間内のある時刻に発生するが、その変化の時刻が（予報期間の開始後すぐか、中ほどか、又は終了時近くか）不確かな場合、変化指示符 **BECMG** のみを用いてその変化を示す（指示文字 **FM** と **TL** 又は **AT** 及び時刻群は省略する）。

1.7

気象状態が一時的に変動して、決められた基準未満になるか又は基準以上になり、それぞれの一時的変動が1時間以上続かず、全体としては一時的変動が生じていると予想される期間が全予報期間の1/2未満である場合、変化指示符 **TEMPO** を用いてこれを報ずる。

1.8

気象状態が一時的に変動して、決められた基準未満になるか又は基準以上になる場合、その期間を次により示す。

- (a) 一時的な変動の期間が着陸用飛行場予報の期間内の途中で始まり、途中で終わると予報する場合、変化指示符 **TEMPO** の次に指示文字 **FM** 及び **TL** とそれぞれの時刻群を続け、変化の始まりと終わりを示す。

例：着陸用飛行場予報が **1000** から **1200** までの場合は、**TEMPO FM1030 TL1130** と報ずる。

- (b) 一時的な変動の期間が着陸用飛行場予報の期間の開始時に発生し、その期間の終了時には終息していると予報する場合、変化指示符 **TEMPO** の次に指示文字 **TL** とその時刻群を続け、変化の終わりを示す（指示文字 **FM** とその時刻群は省略する）。

例： **TEMPO TL1130**

- (c) 一時的な変動の期間が着陸用飛行場予報の期間内の途中で始まり、その期間の終了時に終息すると予報する場合、変化指示符 **TEMPO** の次に指示文字 **FM** とその時刻群を続け、変化の始まりを示す（指示文字 **TL** とその時刻群は省略する）。

例： **TEMPO FM1030**

1.9

気象状態の一時的な変動の期間が着陸用飛行場予報の期間の開始時に始まり終了時に終わると予報する場合、一時的な変動は **TEMPO** のみを用いて示す（指示文字 **FM** と **TL** 及び時刻群は省略する）。

1.10

変化群 **TTTTT** (**TTGGgg**) の次には重要な変化をすると予報する要素群だけを報ずる。ただし、雲が重要な変化をする場合は、変化が予想されない他の重要な雲層又は雲塊も含め、すべての雲の群を報ずる。

1.11

予報する各気象要素は、定時飛行場実況気象通報式に準じて報ずる。

1.12

重要な予報天気 w'w' は、以下の場合に限り、天気略語表にある適切な略語を用いて報ずる。

(1) 以下の天気現象の発生、終息又は強度の変化

－着氷性の降水

－並又は強い降水（しゅう雨性降水を含む）

－砂じん嵐（duststorm, sandstorm）

－雷電（降水を伴う）

－その他視程の重要な変化の原因になると予想される天気現象

(2) 以下の天気現象の発生又は終息

－着氷性の霧

－低い風じん（low drifting dust, low drifting sand），低い地ふぶき

－高い風じん（blowing dust, blowing sand），高い地ふぶき

－雷電（降水を伴わない）

－スコール

－ろうと雲（竜巻）

1.13

重要な天気現象 w'w' が終息することを予報する場合は、w'w' に代えて略語 **NSW**（nil significant weather）を報ずる。

1.14

1500m（5000ft）又は最低扇形別高度の最大値のいずれか高い値未満に雲がなく、重要な対流雲が予想されず、かつ **CAVOK** を適用することが適当でない場合は、略語 **NSC**（nil significant cloud）を報ずる。

1.15

CAVOK

次の状態が同時に起こると予想される場合には、VVVV、w'w'、及び N_sN_sN_sh_sh_sh_s 又は VVh_sh_sh_s 群の代わりに **CAVOK** を報ずる。

(a) 卓越視程：10 km以上。

(b) 雲：1500m（5000ft）又は最低扇形別高度の最大値のいずれか高い値未満に雲がなく、かつ重要な対流雲がない。

(c) 予報天気：天気略語表に該当する現象がない。

注：(1) その他視界内の視程障害現象の扱いについては航空気象観測指針参照。

(2) 最低扇形別高度は、AIP JAPAN に次のように定義されている。

航行用無線施設を中心とした半径 25 海里の円内の部分に含まれる区域に所在する全ての障害物件から、平野部については 300m（1000ft）、山岳部については 600m（2000ft）の垂直間隔をもって設定した緊急時用の最低高度。